

GPS/JIPS 安全性要約書

1. 物質名 (SUBSTANCE NAME)

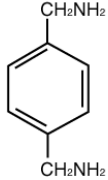
p-キシレンジアミン (CAS 番号 539-48-0)

2. 物質の概要 (GENERAL STATEMENT)

p-キシレンジアミンは淡黄色の固体で、主に樹脂製造の中間体原料として利用されます。強い腐食性があり、また、熔融または溶液状態では空気中の二酸化炭素と反応して炭酸塩を生成します。酸化剤、アルカリ類、酸、過酸化物、金属との混触、空気との接触を避け、密閉して保管する必要があります。

飲み込むと有害で、人体に付着すると重篤な皮膚の薬傷、眼の損傷をもたらします。また、皮膚に接触するとアレルギー性皮膚炎を起こす恐れがあります。取扱い時は、局所排気装置の使用、適切な保護具の着用により、粉塵の発生を防ぎ、吸入の防止、皮膚、眼の保護を図る必要があります。

3. 化学的特性 (CHEMICAL IDENTITY)

| 項目 | 内容 |
|----------|---|
| 化学名又は一般名 | p-キシレンジアミン |
| 製品名 | ショウアミン P |
| 別名 | パラキシリレンジアミン |
| CAS 番号 | 539-48-0 |
| その他の番号 | 官報公示整理番号 化審法:(3)-308 安衛法: 既存化学物質 |
| 化学式等 | C ₈ H ₁₂ N ₂ |
| 構造式 |  |
| 出典・備考 | 株式会社レゾナック発行の SDS 第 3 項 |

4. 使用・用途と適用 (USES AND APPLICATIONS)

| | |
|------|---|
| 主な用途 | p-キシレンジアミンは、一般的に樹脂製造に使用される中間体原料です。ナイロン樹脂、ポリイミド樹脂など合成時の硬化剤などに使用されます。 |
|------|---|

5. 物理化学的特性 (PHYSICAL/CHEMICAL PROPERTIES)

常温で淡黄色の固体で、強い腐食性があります。熔融或いは溶液状態では、空気中の二酸化炭素と反応し直ちに炭酸塩を作ります。空気との接触を避けて保管する必要があります。

| | |
|-------|-----------------------------|
| 外観 | 固体 |
| 色 | 淡黄色 |
| 融点/沸点 | 63.7 °C / 244 °C (101.3KPa) |
| 引火点 | 142 °C (クリーブランド開放式) |
| その他 | 強い腐食性がある |
| 出典・備考 | 株式会社レゾナック発行の SDS 第 9,10 項 |

6. ヒト健康影響 (HEALTH EFFECTS)

| 危険有害性項目 | GHSによる分類結果および評価コメント |
|---|-----------------------|
| 急性毒性 (経口) | 区分4 飲み込むと有害 |
| 急性毒性 (経皮) | 分類できない |
| 急性毒性(吸入:気体) | 区分に該当しない (非該当) |
| 急性毒性(吸入:蒸気) | 分類できない |
| 急性毒性(吸入:粉じん、ミスト) | 分類できない |
| 皮膚腐食性/刺激性 | 区分1B 重篤な皮膚の薬傷 |
| 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 | 区分1 重篤な眼の損傷 |
| 呼吸器感受性 | 分類できない |
| 皮膚感受性 | 区分1 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ |
| 生殖細胞変異原性 | 分類できない |
| 発がん性 | 分類できない |
| 生殖毒性 | 分類できない |
| 特定標的臓器毒性(単回ばく露) | 分類できない |
| 特定標的臓器毒性(反復ばく露) | 分類できない |
| 誤えん有害性 | 分類できない |
| 出典・備考 | 株式会社レゾナック発行のSDS第2,11項 |
| <p>・GHS (Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals): 世界的に統一されたルールに従い、化学品を危険有害性の種類と程度により分類し、その情報をラベルで表示し、安全データシートを提供したりするシステムです。</p> <p>・区分に該当しない(非該当): GHSで定義される物理的性質に該当しないため、当該区分での分類の対象となっていません。</p> <p>・区分に該当しない: GHS分類を行うのに十分な情報が得られており、分類を行った結果、GHSで規定するいずれの区分にも該当しないと考えられます。</p> <p>・分類できない: 分類を確定するための十分に信頼性のあるデータがなく、分類できません。</p> | |

7. 環境影響 (ENVIRONMENTAL EFFECTS)

| 危険有害性項目 | GHSによる分類結果および評価コメント |
|----------------|------------------------|
| 水生環境有害性 短期(急性) | 区分3 水生生物に有害 |
| 水生環境有害性 長期(慢性) | 区分3 長期継続的影響によって水生生物に有害 |
| オゾン層への有害性 | 分類できない |
| 出典・備考 | 株式会社レゾナック発行のSDS第2,12項 |

| 環境中の運命・動態 | |
|-------------|--|
| 土壤中の移動性 | 情報なし |
| 残留性・分解性 | 28日間 生分解性試験 難分解性 |
| 生体蓄積性 | LogPow = -0.25 |
| PBT/vPvBの結論 | PBT(環境中に残留し、高い生物蓄積性と強い毒性を有する)、vPvB(環境中に非常に残留し、非常に高い生物蓄積性を有する)には該当しないと考えられます。 |
| 出典・備考 | 株式会社レゾナック発行のSDS第12項 |

8. ばく露 (EXPOSURE)

| 詳細 | ばく露の可能性 |
|--------|--|
| 作業員ばく露 | ばく露は製造設備、および当該物質を使用する様々な産業設備で発生しますが、いずれも管理された状況で閉鎖系プロセスであり、作業員のばく露の可能性は比較的低いです。ただし、サンプリング作業、 |

| | |
|--------|--|
| | 充填作業、移送作業を行う場合は、吸入や皮膚・眼との接触の可能性があります。 |
| 消費者ばく露 | 本製品は、一般消費者にて直接使用されることはありません。 |
| 環境ばく露 | 本製品は、通常、閉鎖系プロセスで製造され、使用されるので、環境への放出は限定的です。 |
| 注意事項 | 他の用途におけるばく露の可能性がある場合、推奨するリスク管理措置を参考に適切な措置を実施して下さい。 |

9. 推奨するリスク管理措置 (RISK MANAGEMENT RECOMMENDATIONS)

推奨するリスク管理措置により、8項のばく露シナリオによる作業員、消費者および環境に対するリスクは、最小化可能と考えられます。

| 詳細 | 推奨するリスク管理措置 |
|------------------|--|
| 作業員 | <p>技術的対策・局所排気・全体換気: 当社製品の製造・貯蔵または取扱う場所には、局所排気装置を設置するとともに、取扱う場所の近隣に手洗い、洗眼設備を設置して下さい。防爆型の電気機器、換気装置及び照明機器を使用し、静電気対策を講じて下さい。粉塵の発生を避けてください。 取扱い後は必ず手を洗ってください。</p> <p>許容濃度: 設定されていません。</p> <p>保護具: 作業の際は、粉じんを吸い込まないように呼吸用保護具(防塵マスク、簡易防じんマスク)、および皮膚に触れないように耐薬品性のあるゴム製手袋、皮膚及び身体への接触を避けるために保護衣、眼への刺激を避けるため保護眼鏡(化学用ゴーグル)を着用して下さい。</p> <p>注意事項: 作業責任者は、作業員に適切な保護具の選択や正しい使用方法、または作業現場の管理方法などの教育をして下さい。</p> |
| 消費者 | 当社製品は、一般消費者にて直接使用されることはありません。 |
| 環境 | 環境へのばく露を防止するために、河川、水路、下水溝などへの漏洩防止対策を講じるとともに、日常管理、取扱いに注意して下さい。 |
| 特記事項(漏出時の緊急措置など) | <p>人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置: 作業の際には、適切な呼吸用保護具、保護衣、手袋、眼または顔面用保護具を着用し、皮膚、眼との接触を避け、粉じんを吸入しないようにして下さい。風上から作業し、風下の人を退避させて下さい。あらゆる発火源を取り除き、着火した場合に備えて、消火用機材(粉末消火薬剤、アルコール泡、二酸化炭素、水噴霧)を準備して下さい。</p> <p>環境に対する注意事項: 漏洩した製品の流出を防ぎ封じ込めて下さい。流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起ささないように注意して下さい。 封じ込めの方法は、固体として回収し封じ込め、粉じんの生成を最小限に減らすとともに、本物質およびその容器は各自治体の規定に準拠して安全に廃棄して下さい。</p> |
| 注意事項 | 通常での取扱い、緊急時対応、廃棄時、輸送時の管理措置は、株式会社レゾナック発行の SDS の 4,5,6,7,8,13,14 項を参照して下さい。 |

10. 政府機関のレビュー状況 (STATE AGENCY REVIEW)

| 国際機関、各国当局によるレビュー | |
|-----------------------|----------------------|
| IPCS (国際化学物質安全性計画) | 国際化学物質安全性カード 情報なし |

| | |
|------------------------------------|---|
| OECD (経済協力開発機構) | 高生産量化学物質(HPV chemicals)点検計画 情報なし |
| NITE-CHRIP (NITE化学物質総合情報提供システム) | https://www.nite.go.jp/chem/chrip/chrip_search/srhInput |

11. 法規制情報／GHS分類情報・ラベル情報 (REGULATORY INFORMATION／GHS CLASSIFICATION AND LABELLING INFORMATION)


法規制情報

| 適用法令 | 規制状況 |
|----------------------|---|
| 労働安全衛生法 | 通知対象物質ではありません |
| 毒物及び劇物取締法 | 通知対象物質ではありません |
| 船舶安全法 | 腐食性物質(危規則第2, 3条危険物告示別表第1) |
| 航空法 | 腐食性物質(施行規則第194条危険物告示別表第1) |
| 港則法 | その他の危険物・腐食性物質(法第20条第2項、規則第12条、危険物の種類を定める告示別表) |
| 化学物質排出把握管理促進法(PRTR法) | 通知対象物質ではありません |
| 国連分類 | 8 |
| 国連番号 | UN3259 AMINES, SOLID, CORROSIVE, N.O.S. |

GHS 分類情報

| | |
|-------|-----------------------|
| 健康有害性 | 急性毒性(経口) 区分 4 |
| | 皮膚腐食性／刺激性 区分 1B |
| | 眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性 区分 1 |
| | 皮膚感作性 区分 1 |
| 環境有害性 | 水生環境有害性 短期(急性) 区分 3 |
| | 水生環境有害性 長期(慢性) 区分 3 |

ラベル情報

| | |
|-----------|--|
| 絵表示又はシンボル |  |
| 注意喚起語 | 危険 |
| 危険有害性情報 | 飲み込むと有害 (H302) 重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷 (H314) アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ (H317) 長期継続的影響によって水生生物に有害 (H412) |

12. 連絡先 (CONTACT INFORMATION)

| | |
|----------------|-----------------------------|
| 会社名 | 株式会社レゾナック |
| 住所 | 東京都港区芝大門1-13-9 |
| 担当部門 | 機能性化学品事業部 特殊化学品部 |
| 電話番号 / ファックス番号 | 03-6402-5080 / 03-5403-5730 |

13. 発行・改訂日、その他の情報 (DATE OF ISSUE / REVISION, ADDITIONAL INFORMATION)

発行日: 2022年9月2日

改訂:

| 改訂日 | 改訂項目 | 改訂箇所 | 版 |
|-------------|-----------------|-------|-------|
| 2023年 1月 1日 | 3,5,6,7,9,12,13 | 社名等変更 | rev.2 |

記載の情報は、2023年1月1日改訂版の安全データシート(SDS)に基づいています。

14. 免責条項 (DISCLAIMER)

安全性要約書は、化学産業界の自主的化学品管理の取組み(GPS/JIPS: Japan Initiative of Product Stewardship)の一環として作成されたものです。安全性要約書の目的は、対象品に関する安全な取扱いに関する情報を概要として提供することであり、リスク評価のプロセス及びヒト健康や環境への影響などの専門的な情報を提供するものではありません。また、安全データシート(SDS)や化学品安全性報告書(CSR)などのリスク評価に代わる文書として作成されたものではありません。本安全性要約書は、発行時点で入手可能な法令、資料、情報等のデータに基づいて、できる限り正確な記載に努めておりますが、すべてのデータを網羅したわけではありません。また、いかなる保証をするものでもありません。